

2018.2/高知大学予想問題1

全国の地方都市や農山村に少子高齢化と過疎化の波が押し寄せている。このような状況をくい止めるために「地域協働」という取り組みがスタートしている。地域協働とはどういうものか。また、どうあるべきだろうか。「ネットワーク構築」という言葉をキーワードにあなたの考えを800字程度で述べよ。

地域協働とは、地域の行政、民間企業、団体、市民が地域課題や将来像を共有し、それぞれの得意分野を活かして、役割分担しながらまちづくりを進めていくことである。

現在、日本は人口減少社会に突入する一方で、東京大都市圏への一極集中が進み、地方はますます疲弊している。このような状況の中で、地域活性化の在り方として「地域協働」という形が登場してきた。

ただ、私は地域協働を本当に機能させるには「ネットワーク構築」が必要不可欠だと考える。つまり、「行政や企業や市民がそれぞれの得意分野を活かす」と説明しただけでは、何も動かないし、何も変わらない。机上の空論だ。

そこで、三者を結びつけ、「ネットワーク構築」のために働く媒体が必要になる。それが学生を含む若者なのだと私は考える。

例えば、行政、企業、市民の出会いの場を作り、そこで生まれたアイデアから共同事業をスタートさせる。この一連の過程、具体的には日程調整や進行を若者が担うのだ。こういう取り組みは、きっと地域に変化をもたらすだろう。

そして、こういう結節点の役割を担うのに、若者は適している。なぜなら、若者には社会的なしがらみがほとんどないからだ。また、「ネットワーク構築」の経験を持った若者が全国に広がっていけば、そこに地域協働が根付き、ユニークなまちづくりが生まれるだろう。

将来、全国の地域が有機的に連携して、情報やノウハウを共有し、若者に経験を積みせながら、自ら育ち増殖していく。私は、このような生命体のような「地域協働」が理想だと考えている。そして、それが疲弊した地域社会に活力を取り戻すための一つの方法だと考えている。